

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2023 年 4 月 新刊のご案内

芸術／知的財産法 ご担当者さま

アート・ローの事件簿

美術品と法の世界（仮）

盗品から贋作事件編（仮）／アートの取引をめぐる事件編（仮）

島田真琴（一橋綜合法律事務所弁護士）[著]

仕様：四六判並製 盗品から贋作事件編（仮）：224 頁 アートの取引をめぐる事件編（仮）：232 頁

税込予価 各 2,420 円

ISBN 盗品から贋作事件編（仮）：978-4-7664-2883-4 C3032

ISBN アートの取引をめぐる事件編（仮）：978-4-7664-2884-1 C3032

👉 ココに注目！

- ・アートも法律とは無関係ではられない？
- ・名画、名品をめぐるさまざまな事件の背景とその顛末。

アートマーケットが盛況のいま、比例して美術品に関する裁判事件も増加している。ダ・ヴィンチ、エゴン・シーレ作品といった著名な美術品の真贋や盗品に関する事例に始まり、アートと著作権、外国の美術館からの取り戻し、環境保全に関する裁判例など幅広い 40 の事例を紹介する。美術品にまつわる事件内容の「面白さ」に触れつつアート・ローへの知識を深めることのできる 1 冊。

対象 美術品にまつわる背景に関心のある一般読者／知財関連弁護士等の実務家、博物館・美術館関係者、美術取引商等

類書 島田真琴『アート・ロー入門』（慶應義塾大学出版会）

営業部からのおすすめポイント

2021 年に当社から刊行の『アート・ロー入門』は、アート系雑誌でも書評が掲載され、知財法関連の実務家のみならずデザイナーや美術館関係者などから広く読まれました。本書『アート・ローの事件簿』は、より一般的な読者層を想定し、著名な事件の内容に焦点を当ててその「面白さ」を伝えるものとなっています。『アート・ロー入門』で培った読者を下支えにしつつも、美術に関心のある一般読者に訴求できる内容・価格設計に仕上がっていますので、ぜひ積極的な展開をご検討ください！（福本）

👉 主要目次を中面に掲載！ ぜひご確認ください！

【盗品から贋作事件編（仮）目次】

I アートとは何か？

【事件 01】ホイッスラー「黒と金色のノクターン・落下する花火」の価値は？—ホイッスラー対ラスキン事件 [イギリス]

【事件 02】ランクーシ「空間の鳥」は美術品か？—ブランクーシ対合衆国事件 [アメリカ]

【事件 03】ビル・ヴィオラおよびダン・フレイヴィンのインスタレーションは美術品か？—ホーンチ・オブ・ベニソン対英国事件 [イギリス、EU]

【事件 04】ストームトルーパーのヘルメット（スターウォーズ）は彫刻か？—ルーカスフィルム対アインワース事件 [イギリス]

II アートと犯罪

【事件 05】フェルメール贋作の売渡は犯罪か？—フェルメール贋作事件 [オランダ]

【事件 06】身代金目的の絵画泥棒—ゴヤ「ウェリントン公爵」盗難事件 [イギリス]

【事件 07】アメンホテプ 3 世頭部像の輸入は犯罪か？—古代エジプト遺跡盗掘品不法輸入事件 [イギリス、アメリカ]

III 盗品・略奪品は取り戻せるのか？

【事件 08】クロード・モネ「ヴェトウイユの小麦畑」—デヴェール対ボールディング事件 [アメリカ]

【事件 09】シャガール「家畜商人」—グッゲンハイム美術館対ラベル事件 [アメリカ]

【事件 10】エゴン・シーレ「左足を折って椅子に座る女」、「黒いエプロンの女」、「顔を隠す女」—バカラ—対ヴァブラ事件とヴァブラ対ナー事件 [アメリカ]

【事件 11】ウテワール「聖家族、聖エリザベスと聖ジョン」—ゴータ市対サザビーズ [イギリス]

IV 美術品の真贋？

【事件 12】ダ・ヴィンチ「美しきフェロニエール」—ハーン対デュヴィーン事件 [アメリカ]

【事件 13】佐伯祐三の未発表作品群—佐伯祐三贋作事件 [日本]

【事件 14】エゴン・シーレ「父なる神の前に跪く若者」—デ・バルカニー対クリスティーズ [イギリス]

【事件 15】クストーディエフ「オダリスク」—オーロラ・ファイン・アート社対クリスティーズ [イギリス]

V 贋作売買

【事件 16】コンスタブル「ソールズベリー大聖堂」（贋作）—リーフ対インターナショナル・ギャラリー [イギリス]

【事件 17】アングル「トルコ風呂のための習作」（贋作）—ペコ・アーツ対ハズリット・ギャラリー事件 [イギリス]

【事件 18】ガブリエレ・ムンター作品（贋作）—ハーリンドン対クリストファー・ハル事件 [イギリス]

【事件 19】ヴァン・ダイク「レノックス公ジェームス・スチュアート」（贋作）—ドレーク対トマス・アグニュー事件 [イギリス]

【事件 20】「ガニメデスの略奪」（贋作）—ギュスターヴ・モロー贋作事件 [日本]

【アートの取引をめぐる事件編（仮）目次】

VI アート取引の現場

- 【事件 21】ダ・ヴィンチ「岩窟の聖母」制作の報酬はいくらか？—ダ・ヴィンチ対サン・フランチェスコ信心会事件 [イタリア]
- 【事件 22】ダ・ヴィンチの素描画「聖母子、聖アンナと羊」の売却委託手数料は？—アクシディア財団対サイモン・ディキンソン事件 [イギリス]
- 【事件 23】ダ・ヴィンチ「サルバトル・ムンディ」等の取引は委託か売買か？—リボロフレフ対ブーヴィエ事件 [シンガポール]
- 【事件 24】カラバッチョ「カード詐欺師」の出品委託を受けたオークションハウスの義務—スウェイツ対サザビーズ事件 [イギリス]

VII アートと著作権

- 【事件 25】レオナルド・フジタ作品は書籍、展覧会図録に掲載できるのか？—フジタ作品掲載書籍販売差止請求事件等 [日本]
- 【事件 26】ピカソ「曲芸師と幼いアルルカン」等は展覧会の宣伝に利用できるのか？—バーンズ・コレクション展事件 [日本]
- 【事件 27】ジェフ・クーンズ「ストリング・オブ・パピーズ」、「ナイアガラ」は著作権を侵害するか？—ロジャーズ対クーンズ事件とブランチ対クーンズ事件 [アメリカ]
- 【事件 28】リチャード・プリンス「カナルゾーン・シリーズ」は著作権を侵害するか？—カリュー対プリンス事件 [アメリカ]
- 【事件 29】ウォホール「プリンス・シリーズ」は著作権を侵害するか？—アンディ・ウォホール財団対ゴールドスミス事件 [アメリカ]

VIII 外国の美術館からの取戻し？

- 【事件 30】アンリ・マティス「ダンス」—シチューキン対ポンピドゥー国立芸術文化センター事件 [フランス]
- 【事件 31】エゴン・シーレ「ヴァリーの肖像」—合衆国対ヴァリーの肖像事件 [アメリカ]
- 【事件 32】マレーヴィチ「シュプレマティスム・コンポジション」—マレーヴィチ対アムステルダム市事件 [アメリカ]
- 【事件 33】グスタフ・クリムト「アデーレ・ブロッホ=バウアーの肖像 I」—アルトマン対オーストリア共和国事件 [アメリカ]
- 【事件 34】カミーユ・ピサロ「サントノーレ通り、午後、雨の影響」—カッシーラー対スペイン王国事件 [アメリカ]

IX アートと表現の自由

- 【事件 35】メイプルソープの写真作品はわいせつか？—シンシナティ対現代美術センター（パーフェクトモメント展）事件等 [アメリカ、日本]
- 【事件 36】「センセーション」展は公共の施設では開催できないのか？—ブルックリン美術館対ニューヨーク市事件 [アメリカ]
- 【事件 37】「表現の不自由展・その後」はハラスメントか？—「あいちトリエンナーレ 2019」実行委員会対名古屋市事件 [日本]

X アート、文化財、環境の保全？

- 【事件 38】クリストとジャンヌ・クロード「オーバー・ザ・リバー」は環境破壊か？—ラッグズ・オーバー・ザ・アーカンサス・リバー・インク対国土管理局事件 [アメリカ]
- 【事件 39】「ストーンヘンジと巨大遺跡群」を横切る車道を地下トンネル化できるか？—世界遺産ストーンヘンジ保護法人対運輸大臣事件 [イギリス]
- 【事件 40】イサム・ノグチ「新萬来舎」と「ノグチ・ガーデン」は移設できるか？—イサム・ノグチ財団対慶應義塾事件 [日本]